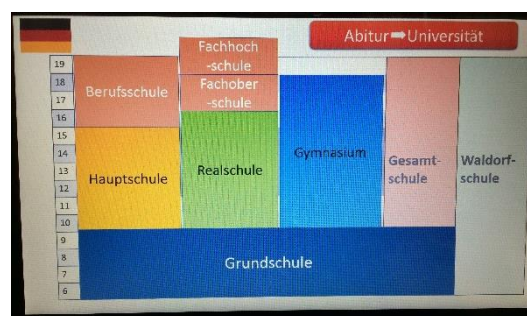


皆さん、明けましておめでとうございます。2016年、私は「日常生活でのドイツ語に慣れる」という目標を掲げていました。授業や学生とのタンデムを通して、達成することができたと思います。2017年は、「ドイツ語で学ぶ」ことを目標に、ドイツ語の授業に加えて教育に関する授業や、卒業論文に関する調査にも取り組んでいきたいです。

今月は異文化理解の授業で行ったプレゼンテーションを中心に報告したいと思います。それに加えて、今回はドイツでの「年越し」について紹介します。

「日本とドイツの教育」～比較文化の授業にて～

ハンブルク大学の冬学期は2月初旬までなので、1月は多くの課題をこなしました。そのなかでもやりがいがあったのが、「日本とドイツの教育」についてのプレゼンテーションです。学校のシステム、学習内容、特色などを比較し、発表しました。せっかくなので、ここで少しドイツの学校について紹介したいと思います。



まず、ドイツのシステムや卒業までの年数は州によって決められています。ハンブルク州では、Grundschule（基礎学校）に4年間通った後で、Gymnasium（ギムナジウム：高等教育課程に進むための学校）、もしくは Statteilschule（基幹学校、実科学校、統合学校を統一した学校）に進学します。このとき、どの学校に行くかは子ども自身と親が決めます。どちらに進んだとしても、学ぶのはドイツ語と数学が中心で、英語学習はもちろん、第2外国語の学習も始まります。そして大学入学のための試験はなく、代わりに Abitur（卒業資格試験）があり、その点数によって、希望の大学に願書が出せるかどうかが決まります。また公立学校に行くために授業料がかからず、大学に払うお金は（公共交通機関のための定期も込みで）一学期に1万円程度です。

クラスから反響が大きかったのは、やはり日本の学校のことでした。特に、学費の高さ、そして学校で毎日掃除の時間があることは、ヨーロッパから来た学生たちにとっては驚きだったようです。

発表の時は緊張もしましたが、ドイツ語で日本のことを紹介できるまでに成長したことへの喜びの方が勝っていました。この比較文化の授業はディスカッション形式で進められていくため、積極的に話さなければ置いておかれます。はじめの頃は、先生やクラスメイトの言っていることを理解することで精一杯で、「日本はどう？」と聞かれても、一言二言でしか返せませんでした。それでも回を重ねるごとに、徐々に自分が考えていることを

言葉にすることができるようになりました。そのためには、文法の間違いを恐れずに、とにかく「伝えよう」という気持ちを持って声を発することが大切です。いきなり自分の意見を言うのはハードルが高いと思うときは、宿題の答え合わせをするとき、テキストを読むときに積極的に挙手し、声を出すのに慣れていくことから始めると良いと思います。はじめは少し勇気が必要ですが、それが達成感に変わるときがきます。なにより発言しようという姿勢を見せることで、クラスメイトにも一目置かれるようになりました。

今学期は、ドイツ語能力に加え、積極性も向上することができました。来学期はこの経験を生かして、更に上のレベルでドイツ語を運用できるように励みたいと思います。

Frohes neues Jahr ! ~ドイツの賑やかな年明け~

ドイツの **Silvester** は、イベントが盛りだくさんです。私は友人宅で、①夜ご飯、②カウントダウン、③花火、④年越しのお菓子、⑤占い、を楽しみました。

まず夜ご飯の **Raclette** (ラクレット) は、専用の小さい鉄板で野菜やお肉、パンを焼き、チーズをかけていただく料理です。パイナップルとチーズの組み合わせが意外にも良かったです。



年越しの瞬間は、テレビを見ながらカウントダウンをします。「3, 2, 1, **Frohes neues Jahr!!**(フローエス・ノイエス・ヤール)」の掛け声に合わせて、お互いの目を見てシャンパン片手に乾杯をします。(ドイツでは乾杯のときに目を合わせてするのが礼儀で、守らなかった場合はその人のおごりになることさえあるそうです。)

乾杯の後は外に出て、花火をしました。若者からお年寄りまで、所構わず何十発もの花火を打ち上げる様子には驚きを隠せませんでした。そして何よりもショックだったのは、友人がみんな平気な顔で花火のゴミを通りに投げ捨てていることでした。(いつもきちんと分別しているのに、どうしたの?!) と思って見ていると、「朝になると、業者が来て片付けてくれるからこのままでいいよ。」とのことでした。花火を回収するのが仕事になっているとは驚きです。



家の中へ入ると、**Berliner** (ベルリーナー) というドーナツに梅のジャムが入っている、甘いお菓子を食べます。年越しそばとは違って、これには胃が持たれる覚悟が必要です。花火の後は **Bleigießen** という、溶かした鉛を冷水に入れて、できた形の影を見て新年を占う、といった占いをしました。

ドイツでの友人との年越しは、賑やかで楽しいひとときとなりました。それでも物足りなさを感じたのはやはり、除夜の鐘を聞きながら年越しそばをすすり、年明けにはお節やお雑煮を食べる、ゆったりとした日本の「お正月」が体に染みついているからかもしれないです。